

理研会報

平成22年7月6日発行

NO.344

6月4日(金)に、第2回役員会と第1回研究員集会が行われました。研究員集会では、各部会の研究の中間発表があり、今後の研究について活発な議論が行われました。

また、大ホールでは今年度で2回目となる「自由研究指導法研修会」も行われました。講師には佐倉東小学校校長の古嶋美文先生と、富里市立洗心小学校教頭の梅里之朗先生をお招きし、とても実践的のためになる講義を行っていただきました。



理科研修会に参加して

佐倉市立王子台小学校 野村 保江

この研修会に参加したことは、これから理科の自由研究を進めていく上で大変参考になった。理科の自由研究のまとめ方の文献は市販されているが、こども達への興味の向け方、内容の広げ方についてはほとんど、ふれられてはいない。

これまで私は、夏休み前になると一枚程度のプリントを作り、理科の自由研究を呼びかけてきたが、これでは、よい自由研究ができるどころか、理科の自由研究をしようとする興味さえ沸いてこない。自由研究の指導は、日々の学習指導が大切であるということ、授業の中で自然現象との出会いの場を工夫すること、そしてそこで出た様々な疑問や気づき、発想を上手くまとめ、問題点を追究したり深めたりする楽しさのある授業を行うことが、個々の夏休みの自由研究を進めていく意欲につながる。

そしてその意欲をよりよい自由研究へとつなげていくためには、学校全体で自由研究の講座のような場をつくったり、これまでの優秀作品を紹介したりする場を設けたりすることがとても大切であるということ。更に、そこに保護者も巻き込んでいくような取組がなされると、(校内の自由研究講座に保護者の参加も呼びかける等)こども達が最後まであきらめずに研究や標本・工夫作品を仕上げることに大いに役立つことが、講師の先生方の実践をお聞きし、とてもよくわかった。

今すぐに講師の先生方のような実践はできないが、日々の授業の工夫や夏休みの1ヶ月前には、校内で自由研究相談会のような場をつくってみたいと思う。理科の自由研究を通して、更なる理科学習や科学への興味・関心へとつなげているようにこども達を支援していきたいと思う。

